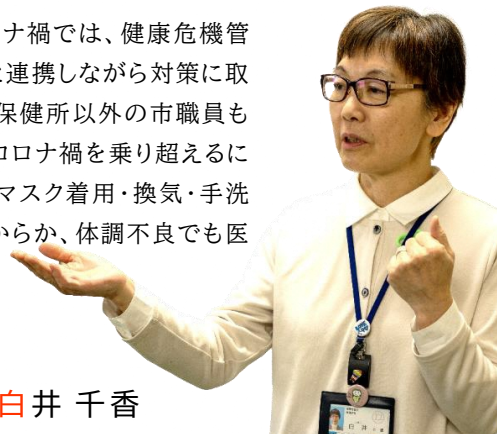


「一人ひとりが感染予防行動を習慣に！」

保健所は市民の命と健康的な生活を守るための土台です。コロナ禍では、健康危機管理の拠点として、災害時同様に24時間体制で国や府、医療機関と連携しながら対策に取り組んでいます。感染者の増加と比例して業務も増加するため、保健所以外の市職員も加わって一丸となり対応しています。さらに市民が一丸となって、コロナ禍を乗り越えるには、ひとりひとりが、「うつさない」「うつらない」ために、必要時のマスク着用・換気・手洗いなどを習慣にしてくださることが重要です。また、感染への不安からか、体調不良でも医療機関の受診を控えるケースが見受けられますが、症状が重篤化する前に、かかりつけ医へ事前連絡のうえ、医療機関で診察を受けてください。

枚方市保健所 所長 白井 千香



健康医療都市ひらかた コンソーシアム連携団体のメッセージ

枚方寝屋川消防組合



大阪府では、今年2月に緊急事態宣言が解除され、ワクチンの接種開始の目処も立ち始めていますが、医療現場は以前ひっ迫しており、予断を許さない状況が続いています。救急業務では、他市で新型コロナの影響で患者を受け入れる医療機関が見つからない「搬送困難事案」が多発していると報じられていますが、幸い、枚方市ではそのような事態は生じていません。今後も、救急車や隊員が感染拡大の媒介とならないように、マスクやゴーグルの着用、搬送後の消毒など、感染対策を徹底していきます。そして、搬送困難事案が発生しないためにも、関係医療機関などと連携しながら、市民の皆さんが安心して生活できるように努めていきます。

枚方市スポーツ協会



公式YouTube



新型コロナウイルスの感染拡大で、スポーツ施設の利用や大会・イベントなどの中止が相次ぎ、市民の皆さんがスポーツを「する・みる・支える」といった機会が奪われています。さらに外出自粛などにより、身体活動量やコミュニケーションが減少し、健康状態への悪影響も懸念されます。皆さんには、できるだけ座る時間を減らし、感染対策を講じて近所を散歩するなど、無理のない範囲で体を動かす機会を作ってほしいですね。また、当協会では、YouTubeチャンネルを開設し、スポーツやエクササイズ動画も公開しているので、ご自身のパソコンやスマートフォンでぜひ活用してみてください。

編集・発行

健康医療都市ひらかたコンソーシアム事務局
(枚方市 健康福祉部 健康福祉総務課)
TEL:(072)841-1319 FAX:(072)841-2470

健康医療都市ひらかた

令和3年3月発行

第36号

コンソーシアム通信

コロナ禍のいま、
伝えたいこと。



- INDEX -

2ページ … 健康医療都市ひらかたコンソーシアムとは？ 枚方市内の感染状況の推移	6ページ … 構成団体のメッセージ 関西医科大学附属病院・星ヶ丘医療センター・ 大阪精神医療センター
3ページ … 2020年以降のコロナを振り返る 構成団体のメッセージ 枚方市	7ページ … 構成団体のメッセージ 枚方公済病院・市立ひらかた病院・ 枚方病院協会
4ページ … 構成団体のメッセージ 枚方市医師会・枚方市歯科医師会・枚方市薬剤師会	8ページ … 構成団体のメッセージ 保健所 連携団体のメッセージ 枚方寝屋川消防組合・枚方市スポーツ協会
5ページ … 構成団体のメッセージ 関西医科大学・大阪歯科大学・摂南大学	

コロナ禍のいま、 伝えたいこと—

新型コロナウイルス感染症により一変した日常生活。国内で初めての感染者が確認されて1年以上が経過した今も、コロナとの闘いは続いています。今回のコンソーシアム通信では、「健康医療都市ひらかたコンソーシアム」の構成・連携団体である市内の医療機関や大学、団体の方から市民の皆さんへ、長引くコロナ禍の中で改めて伝えたい16のメッセージをお届けします。

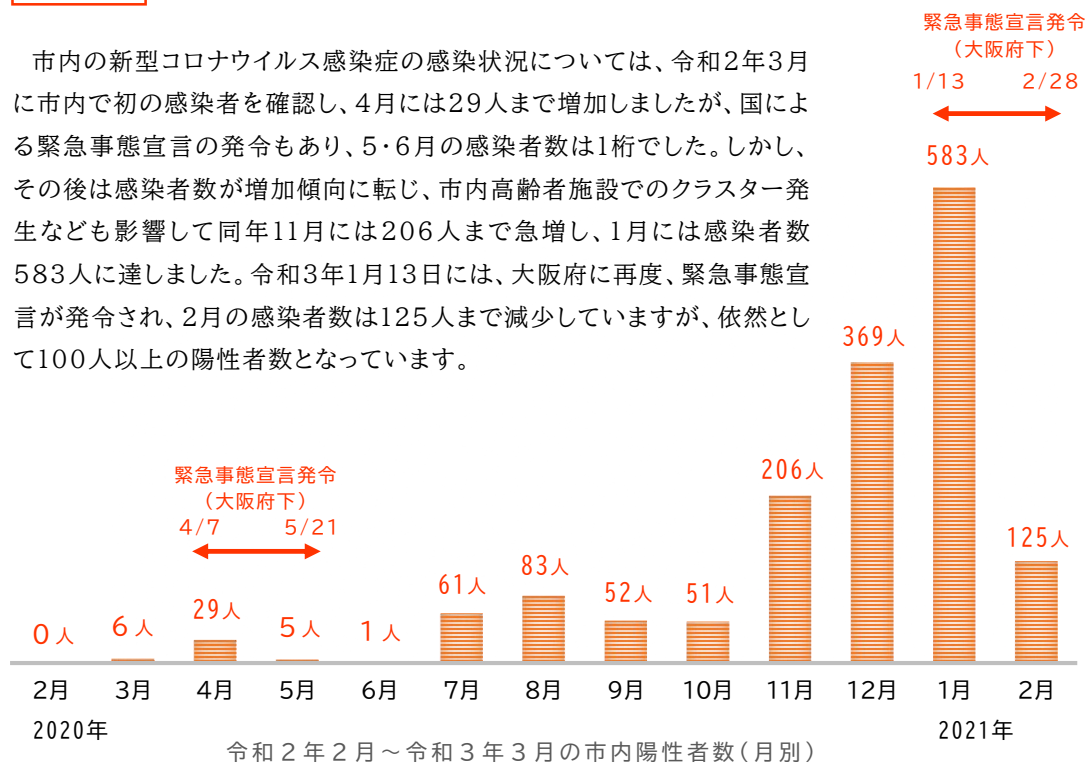
CHECK 健康医療都市ひらかたコンソーシアムとは？

コンソーシアムとは、「共同事業体」を意味します。すべての年代の市民が、健康でいきいきと暮らすことのできるまちを目指す枚方市は、平成24年8月に大阪府内で初めて健康と医療に関わる団体による「健康医療都市ひらかたコンソーシアム（共同事業体）」を設立しました。

このコンソーシアムは、病院・行政・大学・その他団体による計14団体で構成されています。また、その他に連携団体として2団体が参画しており、個別の団体だけでは成し得ない、多彩な連携事業を展開することを目的としています。

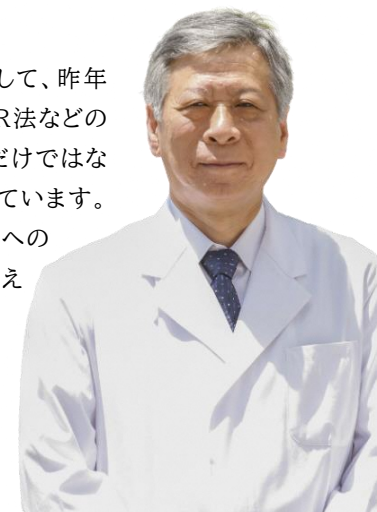
CHECK 枚方市内の感染状況の推移

市内の新型コロナウイルス感染症の感染状況については、令和2年3月に市内で初の感染者を確認し、4月には29人まで増加しましたが、国による緊急事態宣言の発令もあり、5・6月の感染者数は1桁でした。しかし、その後は感染者数が増加傾向に転じ、市内高齢者施設でのクラスター発生なども影響して同年11月には206人まで急増し、1月には感染者数583人に達しました。令和3年1月13日には、大阪府に再度、緊急事態宣言が発令され、2月の感染者数は125人まで減少していますが、依然として100人以上の陽性者数となっています。



「感染早期発見への意識が重要」

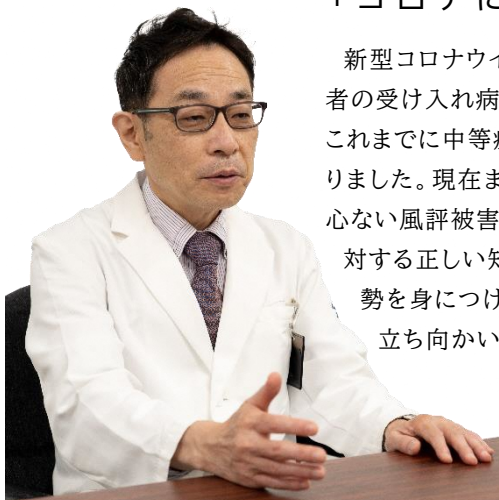
新型コロナウイルス感染症対策として、病院の敷地内にプレハブ2棟を設置して、昨年4月から接触・発熱外来を開設しました。最大で1日30人を診察しており、PCR法などの新型コロナに関する検査も1日70件まで対応しています。検査は、外来患者だけではなく、緊急入院や手術患者も対象とすることで、早期発見と感染拡大防止に努めています。地域住民の医療セーフティーネットとしての役割を維持しながら、全力でコロナへの対応に注力していきます。感染拡大を食い止めるには、早期発見が重要だと考えています。市民の皆さんも、発熱や味覚・嗅覚障害等の自覚症状を感じた場合は、速やかに受診あるいは相談し、感染の発見が遅れないようにしてください。



枚方公済病院 病院長 野原 隆司

「コロナに対する正しい知識を身につけて」

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、当院でも府の要請に応じて、コロナ患者の受け入れ病床を増床し、病棟1つをコロナ専用病棟として運用しています。これまでに中等症病院として、大阪府下で3番目の数の入院患者を治療してまいりました。現在まで院内感染は発生していませんが、残念なことに一部の人から心ない風評被害もありました。コロナ禍を終息させるには、一人ひとりがコロナに対する正しい知識と分別のある行動、コロナワクチンに対する正しい理解と姿勢を身につけることが必要不可欠です。私たちが職員一丸となってこの困難に立ち向かいます。希望を失わず、力を合わせて頑張りましょう。



市立ひらかた病院 病院長 林 道廣

「密な情報共有や連携が重要」

当会員である市内全病院でも、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対する甚大な影響が広がっています。その中で、この未曾有の危機事象を乗り切るためには、病院間のみならず、地域間も含めて、「コロナを乗り切る」という同じ目標に向かって取り組んでいくことが重要だと感じます。枚方が一致団結してこの難局に立ち向かうために、各方面とコミュニケーションを図りながら、情報共有や連携を行っています。近日中に開始される新型コロナのワクチン接種も、病院や地域と密に連携しながら、接種を待つ市民へ1日でも早く提供できるように尽力していきます。市民の皆さんも1日でも早い収束のため、しっかりと感染予防対策をお願いします。



枚方市病院協会 会長 多田 正知



「三次救急病院として地域医療を支えたい」

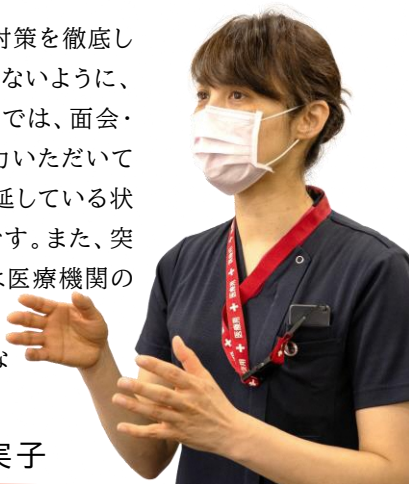
当院は、高度な先端医療を提供する特定機能病院として、コロナ禍においても地域医療の崩壊を招かないよう、高度急性期医療の継続や重症・重篤患者を受け入れる三次救急病院としての役割を果たし続けることが重要だと考えています。コロナ患者は同じ関西医科大学の施設である総合医療センターにて、大阪府下最大級の病床規模で受け入れており、当院と役割分担をしながら地域に貢献しています。この感染症の厄介な点は、不顕性感染(感染しても症状が現れず、時間経過で感染者がウイルスに打ち勝つ状態)であり、無症状患者も見受けられることです。市民の皆さんは、飛沫・接触感染を防ぐため、医療機関受診などの必要な場合を除いて、3密を避ける努力をもうしばらく継続するようお願いします。

関西医科大学附属病院 病院長 **澤田 敏**

「かかりつけ医への受診はためらわないで」

当院では、院内感染対策室が中心となり新型コロナウイルス感染症への対策を徹底して通常診療をしています。外来では、感染を疑う患者と他の患者が接触しないように、時間的・空間的ゾーニングなど病院全体で協力して対応しています。病棟では、面会・外出・外泊の禁止、手指消毒・マスク着用など、基本的な感染対策にご協力いただいています。緊急事態宣言中は受診を控える人が多くいましたが、コロナが蔓延している状況でもかかりつけ医への定期的な受診は体調管理のために必要不可欠です。また、突然の頭痛や胸痛などで救急受診が必要なとき、体調に異変があるときには医療機関の受診をためらわないでください。依然として、新型コロナウイルスに感染するリスクはあります。マスク着用・手指消毒・日々の体調管理など、基本的な感染対策を引き続きお願いします。

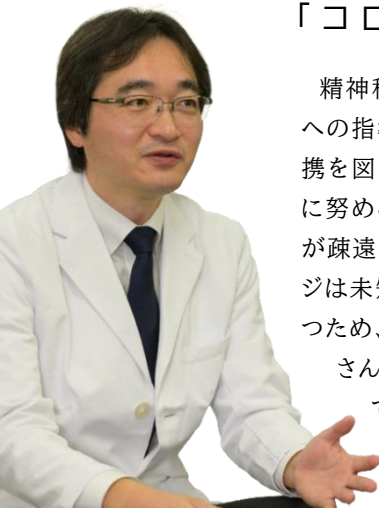
星ヶ丘医療センター 副看護師長 **小野 恵実子**



「コロナ禍でも心の距離は近づけて」

精神科医療機関である当院には、感染症専門医がいないため、院内のゾーニングへの指導や感染症の診断・治療についての相談体制など、大学や関係医療機関と連携を図りながら対策を徹底しています。コロナ禍では、他者と距離を取り、感染予防に努める生活様式が求められる一方で、人との距離が遠くなるとコミュニケーションが疎遠になり、信頼や安心を築きにくくなります。そのような環境が心に与えるダメージは未知な部分が多く、人々への影響を危惧しています。コロナ禍でも心の健康を保つため、物理的な距離は取りつつも、心の距離を近づけていくことが大切です。皆さんには、これまで以上に相手への共感や協力、思いやりを意識した生活を送っていただきたいです。

大阪精神医療センター 院長 **岩田 和彦**



CHECK

2020年以降のコロナを振り返る ※掲載情報は令和3年3月25日時点のものです

2020年

1月

☑枚方市が新型コロナウイルス対策本部を設置

4月

☑大阪府が施設も利用制限を要請し市施設も休館に
☑聖火リレーが延期
☑国が緊急事態宣言を発令

5月

☑1人10万円の定額給付金が給付される
☑市が「新型コロナウイルス感染症対策応援基金」を設置

6月

☑3カ月ぶりに学校が再開
☑市が授業を家庭に生配信するオンライン授業を開始

9月

☑スムーズにPCR検査等を行う「地域外来検査センター」が市内5医療機関に開設

10月

☑全市民に1人3,000円のコロナ対策店応援クーポンが配布される

12月

☑コロナの再拡大で大阪府がレッドステージに移行。市施設も休館に

2021年

1月

☑再び、国が緊急事態宣言を発令

3月

☑新型コロナウイルスワクチンの接種開始に向けて、
市が「新型コロナウイルスワクチン接種対策室」を設置

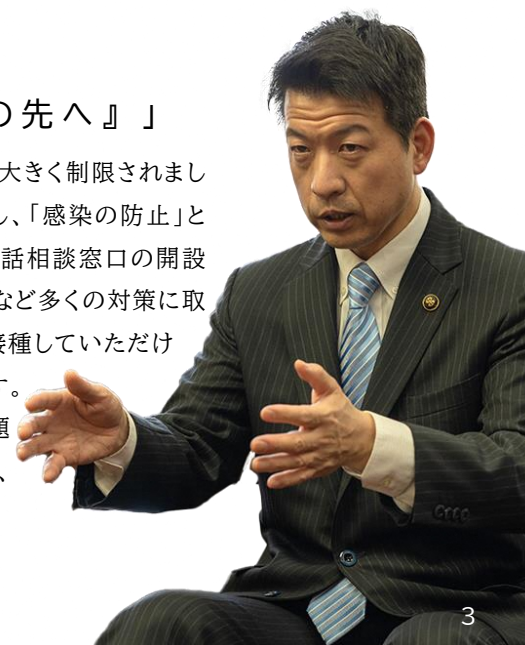
健康医療都市ひらかた コンソーシアム構成団体のメッセージ

「合言葉は『必ず乗り越える。コロナの先へ』」

新型コロナウイルスの感染拡大により、当たり前だった日常が大きく制限されました。本市では、昨年1月に新型コロナウイルス対策本部を設置し、「感染の防止」と「社会経済活動」の両立のため、感染防止や不安解消を図る電話相談窓口の開設や個人・事業者への支援、介護施設のPCR検査実施体制整備など多くの対策に取り組んできました。現在は、市民の皆さまにワクチンを安心して接種していただくよう医師会や医療機関等と連携しながら、準備を進めています。今後も「必ず乗り越える。コロナの先へ」を合言葉に、最優先課題である市民の皆さまの命を守り、健康でいきいきと暮らせるよう、取り組みを進めていきたいと思っています。

健康医療都市ひらかたコンソーシアム会長

枚方市長 **伏見 隆**



「市民の協力と医療の知見で難局を乗り越える」



枚方市医師会は、新型コロナウイルス感染症拡大の第1波以前から、市保健所等とPCR検査の進め方を協議し、関係機関・団体とともに、かかりつけ医で行政検査を行う体制を構築しました。また、検査診療機関の設置にも協力し、特に医療資源が乏しくなる年末年始の体制構築に尽力しました。現在は、新型コロナウイルスのワクチン接種に向けて、引き続き協議を進めているところですが、その中で多くの医師が時間外出務に手を挙げてくれています。やはり、現場の最前線でコロナと戦うのは医療従事者であり、彼らの献身的な姿勢をととても心強く感じています。医療の知見と皆さんの感染予防対策があれば、この難局も必ず乗り越えられると信じています。

枚方市医師会 会長 渡邊 一男

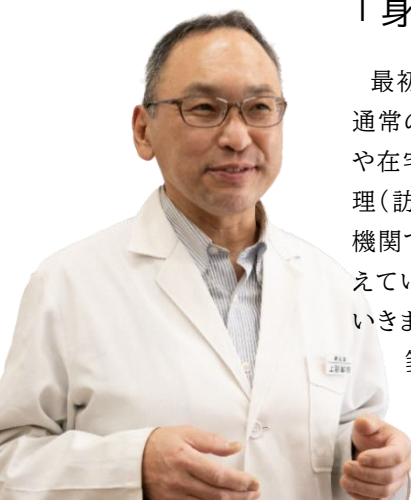
「コロナ禍でもお口の健康管理は怠らないで」

新型コロナウイルス感染症の影響で、歯科医療機関を受診する人が大幅に減少しています。しかし、自粛下での不規則な生活などによって、う蝕や歯周病が重症化すると、全身の健康状態の悪化につながるリスクがあります。受診による感染を不安に思う人もいるかもしれませんが、歯科医療機関では医院内の換気、医療機器等の消毒、マスク・手袋・ゴーグル等の着用、診療室内のエアロゾル(空气中に漂う微細な粒子)対策など、感染を防ぐための標準予防策を徹底しており、現時点で歯科医療を通じた感染拡大の報告はありません。日頃のしっかりとしたお口の健康管理に加えて、定期的に近くのかかりつけ歯科医へ相談することをお勧めします。



枚方市歯科医師会 理事 松本 直人

「身近な医療機関としてコロナと闘う市民を支える」



最初の緊急事態宣言時には、受診抑制による患者数減の影響で、調剤数量が通常の2～3割程度減少した薬局が多く見受けられました。また、オンライン受診や在宅医療を選択する患者の増加に伴って、医薬品の配達や訪問による服薬管理(訪問薬剤管理指導)の件数も増えましたね。薬局は市民にとって身近な医療機関です。店頭では、長引くコロナ禍で精神的な不安感や疲労感を訴える人も増えています。感染リスクに配慮しながら、そのような方々の支えとして、尽力していきます。多くの薬局では、一般用医薬品や衛生用品も取り扱っています。処方箋が無くても、ご自身やご家族の健康・体調の不安や介護のことなど、気軽にかかりつけの薬局・薬剤師に相談してください。

枚方市薬剤師会 副会長 上羽 敏明

「感染症の脅威に打ち勝つ一翼を担う」



本学では、新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえて、オンデマンド講義だけでなく、双方向のオンライン授業を実施し、遠隔と対面の授業を並行して行うことで学生が孤立しないよう努力してきました。また、学生本人と患者の方々へ配慮し、病院実習に入る実習生全員にPCR検査も実施しています。新型コロナも含め、新たな病原体との戦いは人類にとって永遠の課題です。本学では、感染症などの専門家が常に最前線で診療と研究に取り組んでいます。また、看護学部の教員が保健所での応援業務に携わるなど、現場での対応にも注力しています。これらの取り組みを通じて、市民の皆さんの健康と医療に貢献し、新型コロナウイルスの脅威に打ち勝つ一翼を担っていきたいですね。

関西医科大学 学長 友田 幸一

「学生たちの賑やかで活気ある姿を取り戻すために」

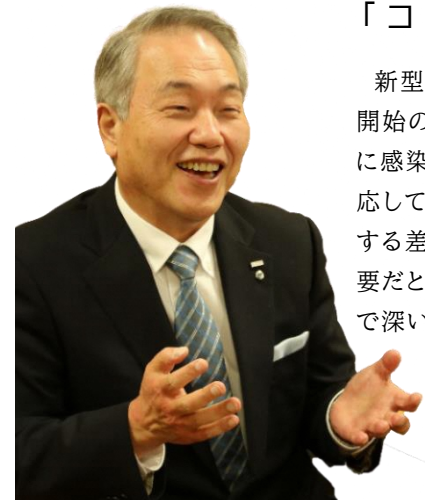
コロナ禍を踏まえて、本学でもオンラインと対面の講義を選択できるようにしています。各講義の準備などで教員の負担が増えており、職員も感染防止対策の準備などで奔走している状況です。何より、本学の学生たちが、入学式の規模縮小や学園祭・国際交流の中止、課外活動の禁止などで、不自由な学生生活を余儀なくされていることが残念でなりません。以前の生活がすべて元通りとはいかなくても、withコロナの新しい生活様式のもと、1日も早くこの難局を乗り越え、本学のキャンパスに学生たちの賑やかで活気ある姿が戻ることを祈っています。そのためにも引き続き感染予防対策を徹底して、教員・職員一丸で学生たちを支えていきたいですね。



大阪歯科大学 学長 川添 堯彬

「コロナが教育の弊害にならないように」

新型コロナウイルスの感染拡大で、入学式の中止やキャンパス閉鎖による授業開始の延期など、学生にも大きな影響が及んでいます。本学は、国の通達をもとに感染対策を講じながら、「学生の成長第一」を掲げてコロナ禍の状況変化に対応しています。withコロナ時代の教育を見据えると、感染者とその関係者に対する差別やいじめを無くし、コロナが教育の弊害にならない社会を築くことが重要だと思います。その実現において、本学もICTツールを最大限に活用し主体的で深い学びを実現する「進化した対面授業」を目指します。また、医療従事者の方には最大限の敬意を払い、本学では看護学部の教員を保健所等の現場に派遣するなど、地域に貢献していきます。



摂南大学 学長 萩田 喜代一